

生徒指導にかかわる取組

(加茂・南蒲)

生徒のコミュニケーション能力を伸ばす指導の在り方

1 今年度の主たる活動

- (1) 期 日 平成23年8月26日(金) 9:00~11:00
- (2) 会 場 加茂市立石川小学校
- (3) 内 容 講演会: 演題『生徒のコミュニケーション能力を伸ばす指導の在り方』
講師 新潟市立月潟中学校 校長 本間寿美 様

2 研修の概要

加茂市では、市教研生徒指導部として小・中合同で指導力の向上に取り組んでいる。今年度は、新潟市立月潟中学校長本間寿美先生を講師に迎え、演習を織り交ぜての講演会を開催した。

講演会では、まず現代の子どもを取り巻く状況についての説明があった。「現代社会はTVは一人一台で当たり前で、家族みんなで楽しむことが少なくなった。」「インターネットや携帯メールなど直接話をしなくても顔を合わせなくてもコミュニケーションがとれる時代になった。」といったものである。これらの状況が仲間づくりのできない児童生徒の増加と関連していることを指摘された。

その上で、『ソーシャルボンド(社会的絆=人間関係の構築)』という言葉を用いて、これが今の時代に求められているという説明があり、このソーシャルボンドを高めていくためには、①適切なスキルを身に付ける ②良質な体験を豊富にさせる ③スキルを日常に浸透させる、といった段階を踏まえたスキル指導が大切だと強調された。

講演会後半は、『アサーショントレーニング』という技法を用いて演習を行った。演習では、児童生徒の立場になり、学校生活を過ごす中で実際に起こりうる出来事を想定し、そのような場合にどのような対応をとることが望ましいのかを考えて話し合った。また、教師や親の立場になり、どのような言葉がけで指導やコミュニケーションの効果を上げていくかなどについて話し合った。

演習を通して、相手を大切に考えた自己表現を身に付けさせることの大切さに気付いた。また、YOUメッセージからIメッセージへ意識を変換させることで、相手の受け入れ方を大きく変えることができることにも気付くことができた。更に、本間先生からは、「スキルを学ぶと楽しく生きることができるようになる。しかし、スキルだけではコミュニケーションは伸びない。コミュニケーションの大切な要素はノンバーバル(非言語)な部分が90%を占めている。」というご指導があり、スキルと共に表情や態度についての指導にもバランス良く取り組むことの大切さを教えていただいた。

2時間の講演会の中では、本間先生自らが学生時代に経験した規則の厳しい寮生活で自分のコミュニケーション能力が鍛えられ、今の自分があるといったお話もあり、楽しく充実した時間を過ごすことができた。また、講演会の最後には、教師の資質として大切だと思うこととして、「教師の自己開示能力」「カウンセリングマインド」「バランス」「集団を動かす力」「柔軟性」「明るさ」といったキーワードを示していただいた。

今回の講演会を通して参加者は多くの気付きや学びを得ることができた。目の前にいる子どもたちが明るく楽しい学校生活を過ごすことができるよう、今後も指導力の向上を図っていきたい。

Iメッセージ エクササイズ

次のような場合、子どもに何と声をかけますか？

- 子ども(幼児~小1,2年)が親の脚を蹴ったとき
- 手伝いをしない中学生の子どもに、台所の後かたづけをしてほしいとき
- 高校生の娘がある晩友達と遊びに出かけ、門限が10時だったのににもかかわらず、夜中の1-2時過ぎに帰ってきたとき

▲:YOU(あなた)メッセージ・・・あなたは～しなさいと、大人が子どもの行動や価値を一方的に決めつけている。
・相手(子ども)に対して命令し、その行動を強制する。選択の自由を奪い、苦痛を与える。
・相手(子ども)はコントロールされまいと抵抗をする。

○:(私)メッセージ・・・私はこうしたい、こう思う、こう願うという思いを伝える。
・相手(子ども)はノーという自由を与えられ、自分の行動は自分で決めることができる。自分自身に対する自信につながる。
・同時に、自分の行動を自分で決めることを通し、自分の行動に責任を負うことになる。
・両親(先生)は自分のことを信頼して任せしてくれた、自分のことを大切にしてくれているという信頼感が生まれる。
・両親(先生)に大切にされているので、当然その自己肯定感が育ち、他の友達も大切にすることができる。

演習で使ったワークシートのうちの1枚

